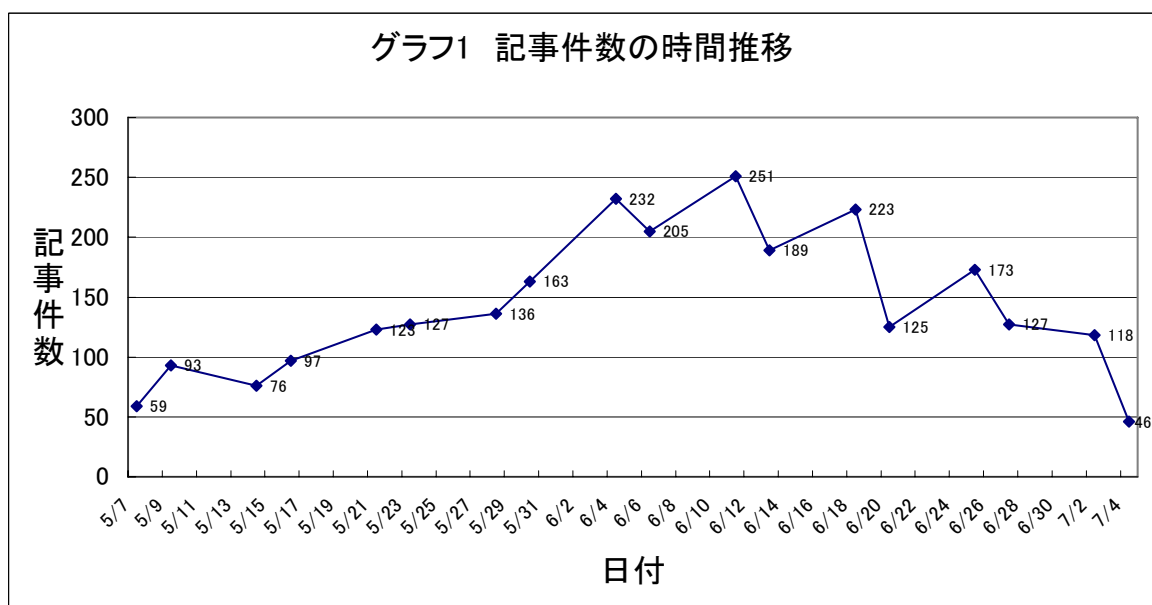


2002 年日韓ワールドカップに関する新聞記事報道についての内容分析研究

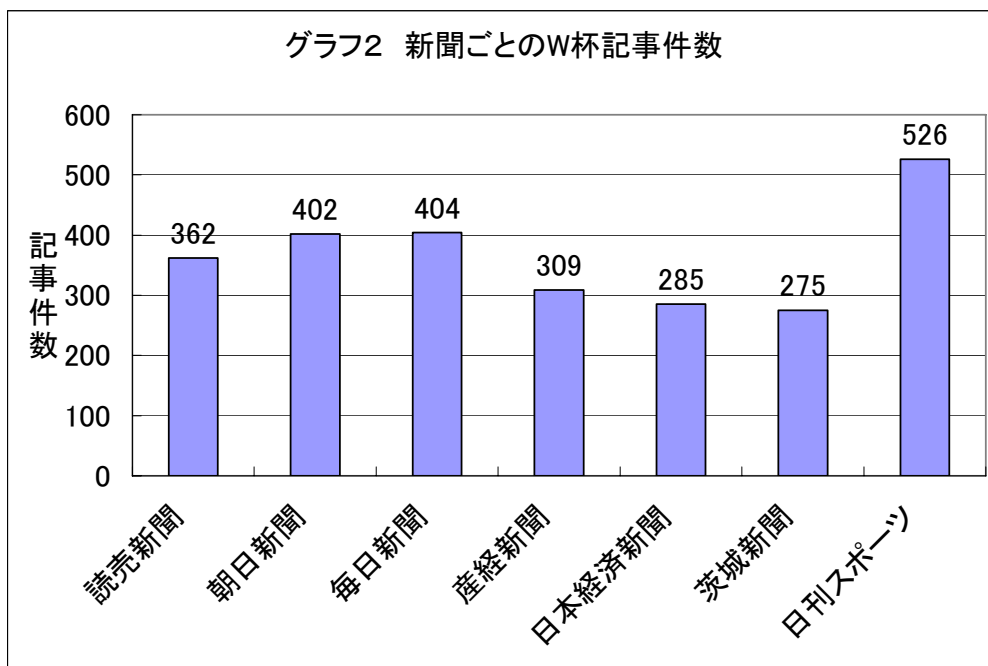
福田 充 (日本大学法学部新聞学科)

2002 年 FIFA 日韓ワールドカップ大会は、日本の戦後史を代表するメディアイベントであった。東京オリンピックや大阪万博、長野冬季オリンピックがそうであったように、人々はこのワールドカップに熱狂し、それを報道する新聞やテレビを注視した。マスメディアはこのワールドカップをどのように報道したのだろうか。今回、新聞報道を分析対象として、ワールドカップがどのように報道されたか、内容分析を行った。その結果の一部を報告する。

- 分析対象： 全国紙5紙、地方紙1紙、スポーツ紙1紙を対象とした。
読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞、茨城新聞、日刊スポーツ
- 分析期間： ワールドカップ前・中・後の報道の変化を見るために、
2002 年 5 月 7 日～7 月 4 日を分析期間とした。また、全数調査ではなく、標本調査とするためのサンプリングとして、平日の試合結果を翌日の平日に報道する火曜日・木曜日の朝刊全面 18 日間分を有意抽出し、分析対象とした。
- 分析方法： 期間中の上記朝刊全面をチェックし、W 杯関連記事の一つ一つをピックアップした。該当記事の見出し、新聞名、日付、ID 番号、掲載面数、記事形態、記事テーマをルールに従ってコーディング。コーディングしたデータを統計処理した。



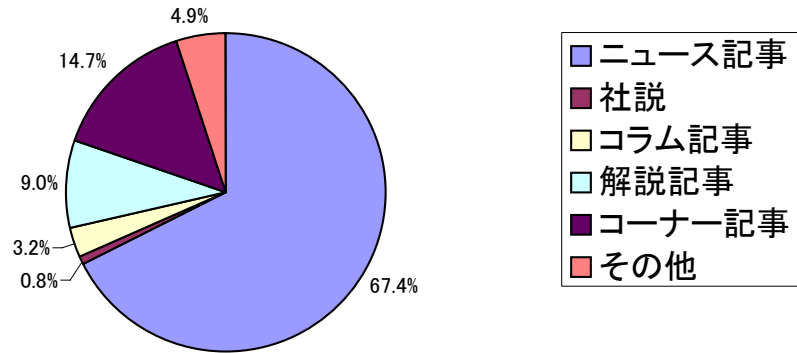
分析対象全部の新聞の記事量をまとめてその推移を示すとグラフ1のようになる。5月前半は少ない記事量が、W杯が近づくにつれて5月後半から報道量が増える。そして、W杯期間中の6月中に報道量のピークがある。W杯が終了して7月に入るとその報道量が落ちるといふ正規分布に近い形を示している。



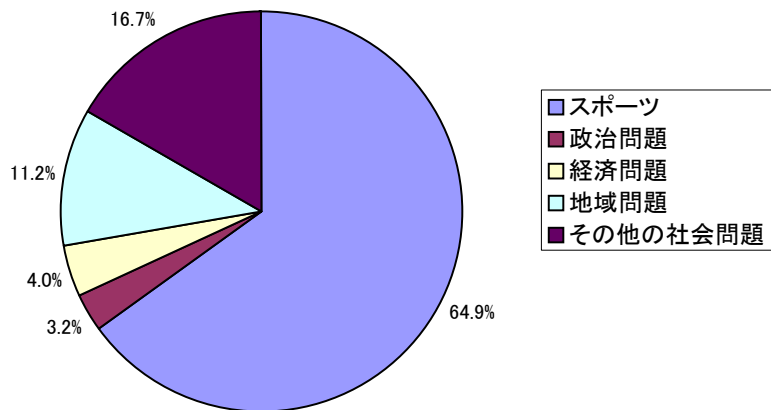
全数調査ではないので全体的な結果ではないが、サンプル・データだけで見ると、新聞ごとの報道記事数は、グラフ2のようになる。読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞の4大紙は、300 から 400 件の記事量であったが、経済報道に重点がおかれる日本経済新聞、地方紙である茨城新聞では、やや記事量が少なかった。スポーツ新聞である日刊スポーツでは、記事量が最も多かった。

新聞報道の中には、さまざまな形態の記事がある。どのような記事形態のW杯報道がどれくらいあったか、記事形態のコーディング結果をまとめたのが、グラフ3である。これをみると、最も一般的な記事形態である「ニュース記事」（便宜上ここではこう呼んだ）が最も多いことがわかる。続いて多いのは、「コーナー記事」、「解説記事」であるが、これは世界が注目する大イベントであるW杯を、新聞が特集記事として多くのコーナーをつくって報道したこと、またサッカーやW杯について知識のない読者のために解説記事を設けたことが影響していると考えられる。

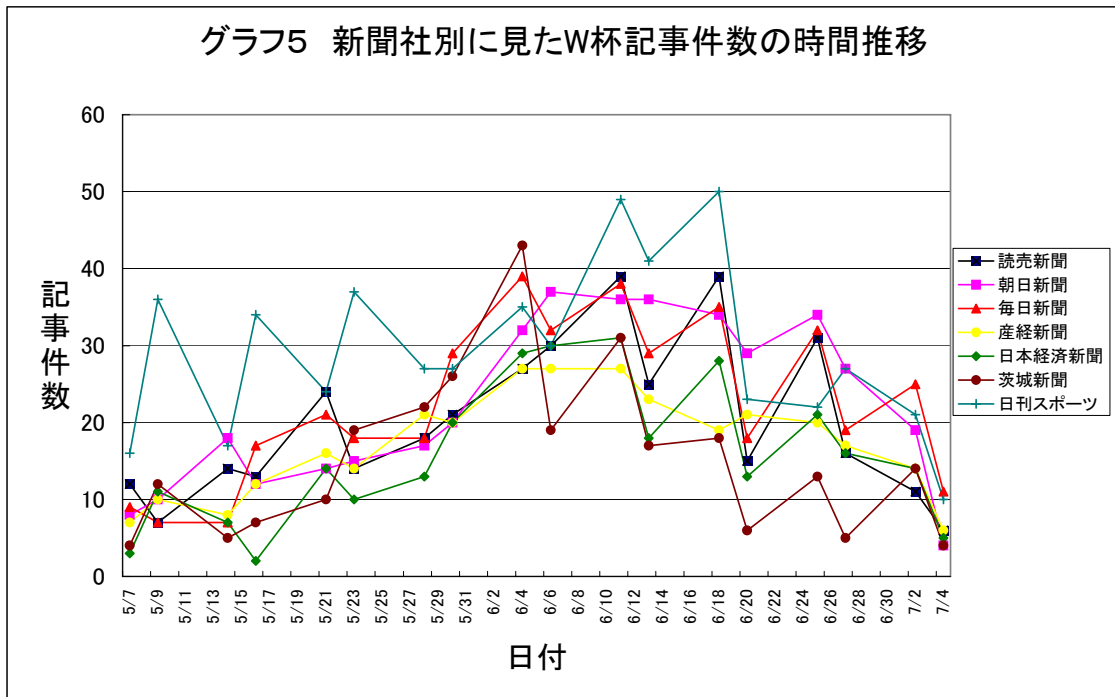
グラフ3 W杯関連記事全体における記事形態



グラフ4 ニュース記事のテーマ



今回のW杯報道の内容分析では、W杯に関連するさまざまな報道を通して、W杯がどのような多岐にわたる社会問題であったかを示すために、W杯に関連する報道すべてを分析対象とした。そのため、W杯に直接関連するサッカーの試合や選手に関する「スポーツ」報道だけでなく、「政治問題」「経済問題」「地域問題」「その他の社会問題」という項目で分類を行った。その結果がグラフ4である。記事内容の分類の内訳例は、レジュメ最終ページに示す通り。スポーツ報道が圧倒的に多いが、キャンプや試合会場などで話題になった地域問題、チケットやフーリガン対策などのその他の社会問題に関する報道も目立った。

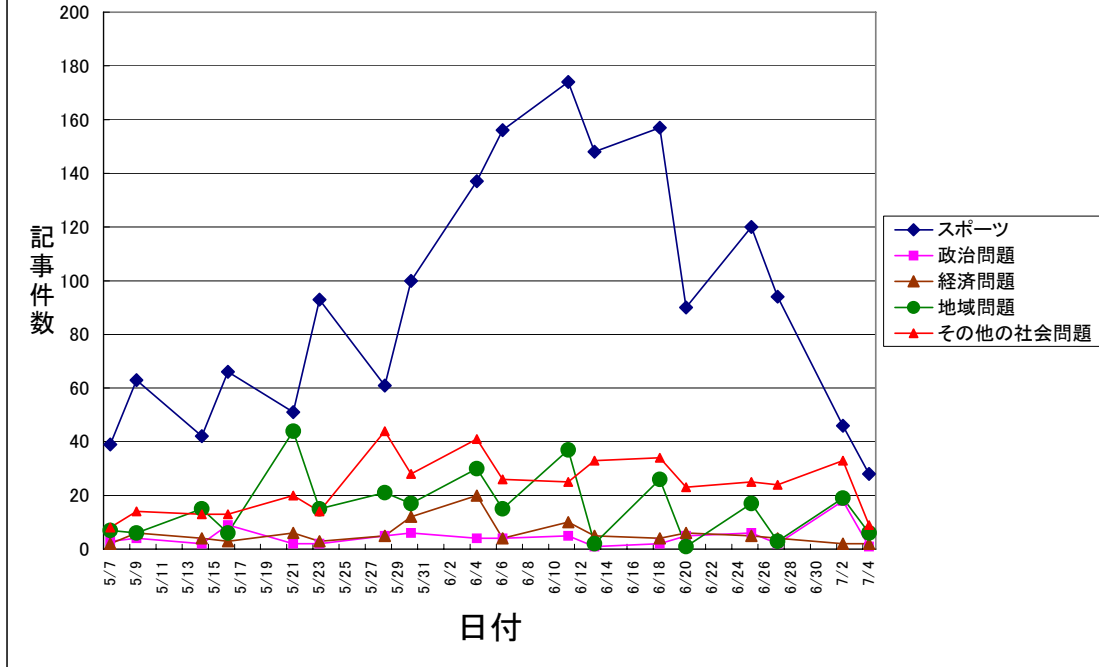


W杯報道量がどのように推移したかを新聞社ごとに見ると、グラフ5のようになる。これをみると、スポーツ新聞以外の一般紙は似たような傾向にあることがわかる。どの一般紙も、グラフ1で示した全体的な報道量の線形に近い傾向が見られる。つまり、5月中少ない報道量がW杯に近づくにつれて上がっていき、W杯終了とともに終息するというパターンである。それに対して、スポーツ紙である日刊スポーツは、その日によって波が激しいが、W杯期間前の5月と期間中の6月の間にはそれほど大きな報道量の差がないことがわかる。

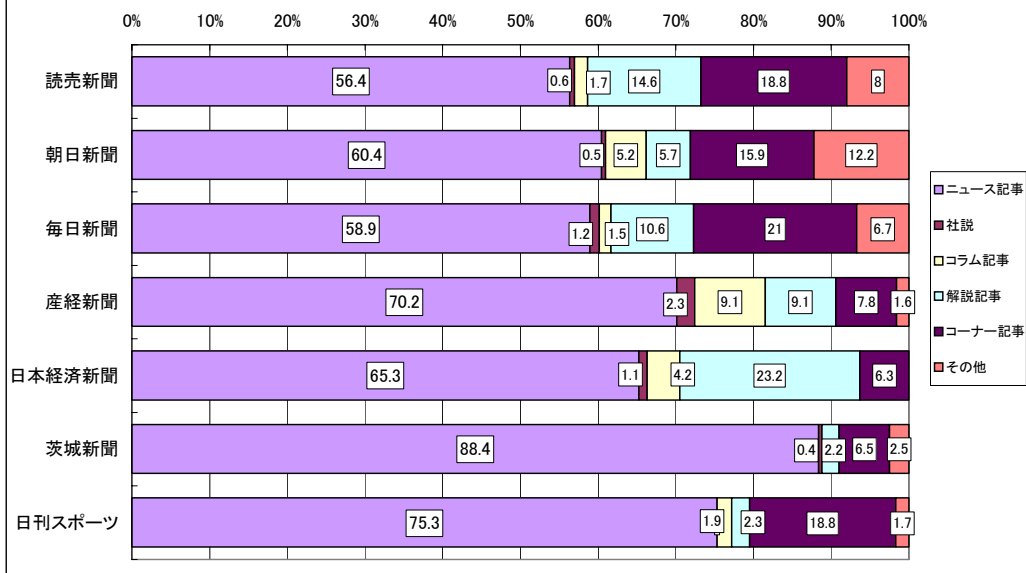
一方、どういった期間にどのようなテーマの報道がなされていたかを示すのがグラフ6である。これをみると、当然スポーツニュースはW杯の開始とともに報道量が上がっている。それに対して、政治問題、経済問題については全体的に報道量が少なく、W杯の期間中かどうかという時期の影響を受けていない。全国で行われた各国代表キャンプ・合宿の報道が過熱したため、地域問題についてはW杯開催前の5月中に山があることがわかる。また、フーリガン対策やチケット問題などの社会問題化した項目のニュースは、W杯開始直前から期間中までずっと一定の報道量を保っている。

このように、時期によって、報道されるニュースのテーマ、内容に一定の傾向があることがわかる。

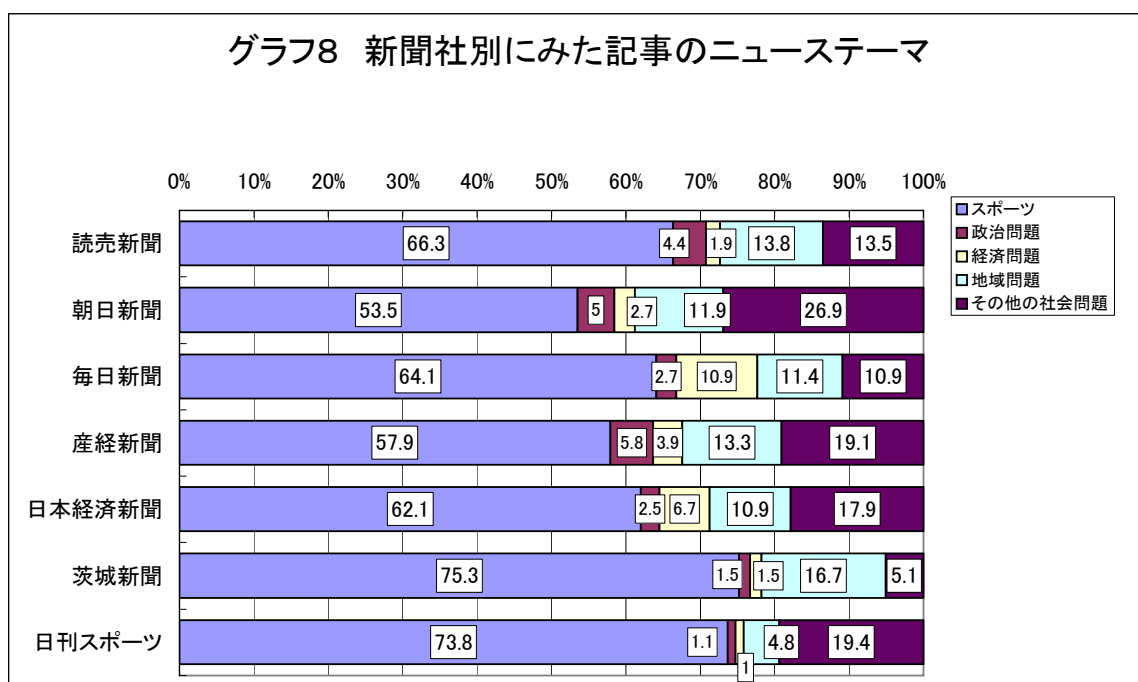
グラフ6 ニューステーマの時間推移



グラフ7 新聞社別にみた記事形態の割合



新聞社ごとにどのような形態の記事が多いかを示したのがグラフ7である。どの新聞社も一般のニュース記事が多いことはかわらないが、それ以外の細かい部分を見ると、それぞれの新聞社ごとに特徴があることがわかる。読売新聞、朝日新聞、毎日新聞は全体を通じて非常に似た割合である。日本経済新聞社は他の新聞と比べて「解説記事」に力を入れていることがわかる。読売新聞、毎日新聞もややその傾向がある。また、日刊スポーツはスポーツ新聞であるためW杯のコーナー記事が多いことがわかるが、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞も同じくらいコーナー記事を設けて、W杯を報道している。



同じく新聞社ごとに、どのようなテーマのニュース報道が多いかを示したのがグラフ8である。これを見ると、やはり「スポーツ」ニュースが当然どの新聞でも多い。その中でも茨城新聞、日刊スポーツはとくにスポーツ報道の側面が強い。しかし、それ以外の項目では新聞社ごとの特徴を見ることができる。地方紙である茨城新聞は「地域問題」ニュースの割合が他紙より高い。また、「経済問題」ニュースに力を入れているのは毎日新聞と日本経済新聞である。朝日新聞では、「その他の社会問題」ニュースを扱っている割合が他紙より高く、さまざまな社会問題を朝日新聞が取り上げていることがわかる。

全体的に見ても、すべての新聞がさまざまな問題をそれぞれの新聞の特徴を保ちながら多角的で多様な報道を行っていることがわかる。

＜ニューステーマの分類項目の例＞

ワールドカップのサッカーの試合結果、選手紹介などの報道は、ニューステーマの分類として「スポーツ・ニュース」であるが、ワールドカップにはその他の複雑で多様な問題の報道がある。今回の内容分析では、下記のようなニュースも、ワールドカップ関連ニュースとして、政治、経済、地域、その他の社会問題などに分類して分析した。

○**政治問題**： 政治家や政治的立場の人の W 杯への関与。政治問題への影響など。

- ・皇太子ご夫妻日本初戦観戦へ 5/30
- ・韓国会場・米国初戦でテロを警戒 6/6
- ・埼玉県知事、会見の場でチケット問題の損害賠償請求を示唆
- ・韓国統一地方選、W 杯で関心低く 6/6
- ・北朝鮮が W 杯米国戦を初放映 6/27

○**経済問題**： W杯に関係する経済活動について。経済的側面への影響・効果など。

- マクドナルド W 杯店内放送 5/9
- 全日空ソウルにチャーター便 5/16
- 韓国戦ツアー企画急増 5/16
- 観光協会、W 杯効果に期待 5/30
- W 杯効果で紙需要に底打ち 6/20
- 決勝 T 進出トルコ国内で関連グッズ完売 6/20
- お祭後の夏商戦 W 杯の期待薄く 6/27

○**地域問題**： 日本全国の地域社会での W 杯のとりくみや問題。

- W 杯観客に鹿島の歴史と文化を紹介 5/23
- カメルーン代表到着遅れで中津江村騒動 5/23
- 商店街空き店舗で W 杯観戦を 5/30
- 在日ブラジル人の町・群馬大泉町カナリア色に染まる 6/27

○**その他の社会問題**： チケット問題や、フーリガン問題、メディアの問題など。

- FIFA 会長告訴へ 5/9
- チケット最終売り出し韓国戦ばかり 5/23
- チケット 45000 枚未着 5/23
- フーリガン 2 人成田で入国拒否 5/30
- チケット問題 協会が大量返品？ 6/6
- 地上波テレビ局大誤算 日本戦以外でも高視聴率 6/13
- スカパー 全試合生中継で加入者大幅増 6/13